

# 上越市立板倉中学校 学校運営協議会たより

第1号 R3.6.23 板倉中学校学校運営協議会事務局

6月1日(火)に第1回学校運営協議会を開催しました。授業の様子を参観いただいた後、令和3年度の教育活動等について承認や意見交換を行いました。

## 令和3年度学校運営競技委員

丸山 治夫：学校運営協議会長  
長藤 豊：学校運営協議会副会長  
川上 優子：主任児童委員  
津畑 進：県立有恒高等学校長  
中澤 健一：まちづくり振興会事務局  
佐藤 絵美：PTA会長  
清水 圭一：PTA副会長  
嶋田 和明：PTA幹事  
福崎 和幸：PTA幹事  
学校職員 校長：藤田賢一郎 教頭：黒田 匠  
教務主任：丸山 徳子



## <協議内容>

- 1 学校運営方針
- 2 小中一貫教育実践校に関わる承認
- 3 新学習指導要領を受けた成績算出
- 4 今年度諸行事の参列や参観
- 5 GIGAスクールの取組
- 6 今後の部活動

## 主な協議内容

### 1 学校経営方針について

#### (1) 方針の概要(校長)

「全ての生徒に輝きの場(ステージ)を！」をスローガンに、

卒業式の日や3学期の終業式の日、「大人になった自分をイメージするとわくわくする」「地域から一人前と認められるようになることは嬉しい」「自分のために何かをしたいという夢」と「世のため人のために何かをしたいという志」をもって次のステージに進もうとする生徒を育てる。

#### (2) 学校の状況等(校長)

- ・昨年度よりは平常に近い形で教育活動を行うことができている。  
(感染症対策は継続。部活動の大会は、感染症対策を行いながら予定通り実施。)
- ・今年度生徒数204名。10年後には90名程度となる見込みである。また、学年3学級は、今年度の3年生が最後であり、令和6年度の1年生は1学級となる見込みで、教員数も大きく減少する。部活動をどうするか等の議論を始めなければならない。
- ・上越市教育委員会の学校管理規則で、教職員の時間外勤務時間の上限が定められたが、当校の数名の教職員が、上限を大きく超えている。長期休業中の勤務時間の短縮や、業務改善等で、超過勤務時間を少しでも減少できるように取り組んでいる。

### 2 小中一貫教育実践校に関わる承認

以下のように承認されました

- ・代表校長 板倉中学校長 藤田賢一郎
- ・副代表校長 板倉小学校長 竹田正子

### 3 新学習指導要領を受けた成績算出

#### (1) 説明の概要（教務主任）

##### ①改訂学習指導要領のポイント

これまでの「何を知っているか」という内容を基本とする考え方から、その知識を使って「何ができるようになるのか」という資質・能力を基本とする考え方に大きくシフトした。各教科等の「目標」や「内容」も、この資質・能力の三つの柱に基づいて、再整理された。

##### ②評価方法の変更

資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、すべての教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理された。

##### ③評価資料

学習評価は、定期テストなどの筆記試験のみならず、パフォーマンステストや実技、話し合い等の様子の観察、レポート、振り返りの蓄積、提出物などの材料から総合的に行う。

#### (2) 主なご意見

○授業がどう変わったかを、保護者に知らせていくとよいのではないか。

→**学校側の回答**

・今年度1回目の保護者との面談を、夏休みの初めに設定し、そこで成績を渡す予定です。その際に、授業の変化や成績算出の変更点について説明します。

### 4 今年度諸行事の参列や参観

#### (1) 説明の概要（教務主任）

- ・新型コロナウイルスの感染拡大予防として、式典や諸行事の参列や参観については、昨年度に引き続き、制限を設けている。今後の感染状況等を見ながら、対応していく予定である。
- ・生徒が頑張っている姿を、多くの保護者や地域の方に見ていただきたいが、リモートでの配信を職員で行っていくのは難しい（職員は生徒の指導を行っているため）。よい方法について熟議したい。

#### (2) 主なご意見

○小学校の行事等では、専門業者を頼んで配信等を行っていた。専門業者への依頼や機器の貸与等、いずれにしても予算の調達が問題となる。よい方法があれば、提案していきたい。

○体育祭を5月に実施した中学校があったと聞いたが、今後板倉中も体育祭の実施時期について検討していくか。

→**学校側の回答**

・昨年度末に時期の検討を行いました。3年生の部活動の日程や、各学年のリーダー育成等の課題があり、今年度は昨年度の経験を踏まえて、テントの数や水分補給の方法を考慮しながら9月の実施としました。5月に実施した学校の状況を聞くと、熱中症等の健康面での課題をクリアするだけでなく、行事のねらいや教育活動の中での位置付けの変更も必要であったとのことでした。板倉中学校でも、引き続き検討が必要と考えています。

○検討の際、生徒の情熱の焦点となっていることを考慮してほしい。

○11月に全国人権・同和教育研究会が上越市で実施されるが、集会に向けて学校で取り組むことはあるのか。

→**学校側の回答**

・今までも、人権教育・同和教育については取り組んできており、新たに取り組む内容はありません。集会には、当校からも教職員が数名参加する予定です。

## 5 GIGAスクールの取組

### (1) 説明の概要（教頭）

- ・昨年度後半から進められた「生徒1人1台端末（タブレット）配置」や「Wi-Fi環境の整備」が完了し、今年度初めから、iPadを使った学習等が始まっている。よりよい形で生徒が学びにこれらを取り込み、可能性を広げていくために、教職員も研鑽を積む必要がある。また、学校や地域の様子を発信する活動にiPadを活用し、「生徒の学習の活性化が、地域の活力になる」ような教育活動を目指していきたい。

### (2) 主なご意見

- iPadを使った学習について、生徒はどのようにとらえているか。

#### →学校側の回答

- ・3年生の英語の授業で、生徒に質問したところ、iPadを使った授業の方がよいと答えた生徒が6割、黒板を使った従来の授業がよいと答えた生徒が4割でした。教職員は、両方の授業方法を組み合わせて学習を進めた方がよいと考えています。
- ・当校では、「授業で活用しよう」と上段に構えずに、「日常的に使おう」という姿勢で取り組んでいます。現在、全ての学級で、ビデオ会議ができるようになりました。万一、リモートで授業をしなければならぬ状況になった場合も、朝の会において、ビデオ会議で全員顔を合わせることができます。

## 6 今後の部活動

### (1) 説明の概要（教頭）

- ・生徒数減少とそれに伴った教員数の減少に伴い、部活動の見直しが必要な時期にきている。現在は、運動部5部、文化部2部で、顧問は、教頭、養護教諭、兼務校のある教諭を含めて、ほぼ全ての教員を部活動顧問に配置している。
- 部活動の方向性について、早急に議論を進めていきたい

### (2) 主なご意見

- 部活動顧問は教員でなければいけないのか。

#### →学校側の回答

- ・大会の引率や大会時の監督には制約があり、教員でなければなりません。但し、上越市は「部活動指導員」制度があり、この立場になれば、教員でなくても引率や監督はできます。しかし、「部活動指導員」の採用や、指導員としての活動日数には制限があるので、どの部活動にも導入できるわけではありません。
- ・地域に指導や練習の受け皿のある水泳や剣道については、普段はスイミングスクールや道場で練習し、大会のときのみ教員が引率するという学校が増えてきています。当校でも、バレーボールやバドミントンは地域のクラブとしての活動も行われています。野球部では保護者会から練習の協力をさせていただくこともあります。

- 有恒高校では、生徒が少人数となったため、部活動を整理した。将来を見通して、部活動数の削減や、別の方策を考えていく必要がある。

## 7 その他

- 板倉区まちづくり振興会・青少年育成会の今年度の取組（中澤委員）
  - ・宮古島交流は今年度も中止の方向で検討している。
  - ・板倉ふれあいまつりは現在実施の是非について検討中である。